

彙報

会長 上野善道

『言語研究』第130号彙報の誤記訂正

以下2点をお詫びして訂正します。

- ・本誌第130号の197, 198, 199ページに掲載されている決算報告「基金内訳」の「計」に誤記がありました。いずれのページにおいても、10,150,048円とある合計額は、正しくは10,150,456円です（計3箇所）。
- ・同175ページの「2006年度第1回委員会」〔報告事項〕(2)において平成18年科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の申請額260万円は350万円の誤りでした。

2007年度第1回常任委員会

日時：2007年4月28日（土）13:30～18:00

場所：東京大学文学部3号館6階言語学研究室

出席者：上野善道（会長）、林 徹（事務局長）、上山あゆみ、風間伸次郎、菊地康人、窪菌晴夫、柘植洋一、早津恵美子
オブザーバー：影山太郎（編集委員長）、井上 優（大会運営委員長）、郡司隆男（広報委員長）、永澤 済（事務局長補佐代理）

〔報告事項〕

(1) 大会運営委員長の交代

2007年4月1日付で大会運営委員長が樋口康一氏より井上優氏に交代したことが会長より報告された。

(2) 表紙ワーキンググループの活動報告と表紙デザイン最終案の回覧

・『言語研究』の体裁を変更することになったことに伴い、表紙検討ワーキンググループが組織されたこと、及びその活動内容が会長より報告された。ワーキンググループのメンバーは会長、事務局長、編集委員長、早津常任委員、大修館書店の尾川和日子氏、ひつじ書房の松本功氏の6名である。

・ワーキンググループの第1回会合は3月

24日（土）午後2時より6時まで東京大学文学部3号館6階言語学研究室で開かれた。あらかじめ依頼していたデザイン案を2人のデザイナー（立生株式会社の品角氏と東京ピストルの加藤氏）に別々に持ってきてもらい、それぞれのデザインに対してメンバーが意見を述べた。その意見を参考に、デザインを手直しして後日再度提出してもらった。

・第2回会合は4月7日（土）午後1時半より5時まで東京大学文学部3号館6階言語学研究室で開かれた。デザイナーより提出された8つのデザイン案を検討し、3つのデザイン案を最終案とした。また、4月15日の編集委員会、および28日の常任委員会における投票の手順を決めた。会長、事務局長、常任委員（編集委員を兼任の窪菌委員を除く7名）、編集委員（委員長を含む11名）、大会運営委員長、広報委員長、の22名の投票で決めることとした。

・第2回会合で決まった投票手順が常任委員に説明された。また、表紙デザイン最終案を現行デザインとあわせて回覧した。なお、投票は本常任委員会の最後に行なわれた。〔審議事項〕(6)を参照。

(3) 次期大会運営委員長と次期広報委員長について

大会運営委員長と広報委員長の任期が2007年9月末日で切れるが、現委員長の井上氏と郡司氏に、さらに1年半お願いすることが会長より報告された。（委員長の再任を妨げる規定は無い。）

(4) 『言語研究』第130号彙報における〔別表1〕2005年度日本言語学会決算の誤記について

『言語研究』第130号197, 198, 199ページの「基金内訳」の「計」が10,150,048とあるが、正しくは10,150,456であることが報告された（計3箇所）。また、この訂正を本年度第1回委員会で報告するとともに『言語研究』第132号（本号）に訂正記事を掲載する予定であることが報告された。2006年度第1回委員会で

承認された決算書には正しい合計額が記載されていたが、決算書のファイルを利用して彙報原稿を作成した際に、一部の修正箇所が直っていないバージョンのファイルを用いたために誤った合計額が彙報に記載された。

- (5) 2007年度科学研究費補助金の交付について
- ・350万円の申請に対し210万円の交付があったこと、及び、交付額の内定(210万円)があり交付申請書を提出したことが報告された。
 - ・『言語研究』第132号(2007年9月刊)と第133号(2008年3月刊)の印刷単価が異なるため、1号ずつの契約としたことが報告された。また、9月刊の印刷単価の減少および版型変更によるページ数減により印刷経費が下がったことが報告された。
- (6) 各種委員会からの報告
- ・編集委員会
「日本言語学会著作物取り扱い規程」の制定に伴って、投稿規程を改訂する必要があることが報告された。〔審議事項〕(5)参照。また、投稿原稿の書式の統一、『言語研究』の編集状況、『言語研究』の新しい紙面について報告があった。
 - ・大会運営委員会
2006年度秋季大会以降の経過について、および今後の課題について報告があった。また、審査前のデータ整理、ならびに審査のための時間を確保するために、発表申し込み締め切り日を10日繰り上げ、8月20日及び3月20日とすることが報告された。この繰り上げにより、プログラムの迅速な作成が可能となる。
 - ・広報委員会
『言語研究』アーカイブ化に関して、第1段階として、本学会より雑誌を提供するが返却を求めない最近の号に関する覚書を科学技術振興機構と締結し、アーカイブ化の作業が始まったことが報告された。また、今後の作業で、同機構が東京大学図書館蔵の『言語研究』を利用する

際に発生する手数料を、言語学会が負担することが報告された。さらに、過去の大会の発表要旨がホームページで閲覧できるようになったことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2006年度の決算報告および中間監査
- ・2006年度決算について報告があり、了承された。2007年4月27日に佐藤昭裕、吉田和彦両会計監査委員によって適正と認められたものである。〔別表1〕参照。
 - ・日本学術振興会から科学研究費の助成を受けている学協会すべてに対して科学研究費の執行について注意があったことを受けて、2006年12月21日に会計監査委員による中間監査が行なわれ、報告書が2007年1月10日提出された。これにより、中間監査の時点で把握できる範囲の出入金は適正に管理されていることが確認された。また、より適正な会計処理のための提案が、1) 科学研究費補助金の入金用通帳の管理、2) 科学研究費補助金以外の預金通帳、3) 積立金の3点についてそれぞれあった。〔別記1〕参照。
- (2) 2007年度予算案
- 2007年度予算について常任委員会原案を作成した。〔別表2〕参照。
- (3) 大会における公開講演、シンポジウム講師等の謝金等について
- 「大会における公開講演、シンポジウム講師等の謝金等について」(常任委員会決定)を一部修正し、これに沿った予算執行を要請することにした。なお、本常任委員会後のメーリングリストでの議論で、さらに文面を一部修正した。
- (4) 大会発表に関する諸規定の改訂
- 大会発表申し込み締め切り日を10日繰り上げて8月20日及び3月20日としたことに伴い、「口頭発表に関する規定」「ポスター発表に関する規定」「ワークショップに関する規定」の改訂案が大会運営委員長から出され、意見交換を行なった。

(5) 投稿規程の改訂

「日本語学会著作物取り扱い規程」が制定されたことに伴う投稿規程の改訂案が編集委員長から出され、意見交換を行なった。

(6) 表紙デザイン最終案の投票および開票

- ・『言語研究』の新しい表紙を決める投票が行なわれた。表紙ワーキンググループの選んだ3つのデザイン案と現行デザインの計4点のうちから1点を選び投票した。なお、編集委員の11名は4月15日の編集委員会ですでに投票を済ませている。その際、投票用紙は封筒に入れて封をし、編集委員長が未開封のまま本常任委員会に持参した。
- ・選ばれたデザインについて、そのデザインを選んだ人のコメント等を参考に、会長と編集委員長がデザイナーと微調整を行なうことになった。

(7) その他

- ・大会プログラムに発表者の「身分」を表記するかどうかについて意見交換を行なった。
- ・ポスター発表について意見交換を行なった。
- ・会費収入の減少を巡って意見交換を行なった。

2007年度第1回委員会

日 時：2007年6月16日（土）10：00～12：00

場 所：麗澤大学校舎1号棟2階大会議室

出席者：上野善道（会長）、林 徹（事務局長）、井上 優、上山あゆみ、荻野綱男、影山太郎、風間伸次郎、梶 茂樹、加藤重広、菊地康人、久保智之、窪菌晴夫、熊本 裕、呉人 恵、郡司隆男、小泉保、酒井 弘、坂原 茂、坂本 勉、清水克正、城生佰太郎、杉浦滋子、砂川有里子、田野村忠温、玉岡賀津雄、柘植洋一、角田太作、津曲敏郎、外池滋生、長嶋善郎、野田尚史、早津恵美子、藤代 節、藤本幸夫、堀江 薫、益岡隆志、町田 健、峰岸真琴、三原健一、藪 司郎、湯

川恭敏、吉田 豊、渡辺 己（以上43名）

委任状：17名

オブザーバー：庄垣内正弘（顧問）、早田輝洋（顧問）、滝浦真人（第134回大会実行委員長）、沢木幹栄（第135回大会実行委員長）、吉田和彦（会計監査委員）、梅谷博之（事務局長補佐）

[報告事項]

- (1) 第134回大会（2007年度春季大会、麗澤大学）について
会長より麗澤大学へ謝意が表された後、大会実行委員長の滝浦真人氏より挨拶があった。
- (2) 第135回以降の大会について
第135回大会（2007年度秋季大会）が11月24日、25日に信州大学で開催されることが報告され、大会実行委員長の沢木幹栄氏より挨拶があった。また、第136回大会（2008年度春季大会）は学習院大学（大会実行委員長は長嶋善郎氏）で、第137回大会（2008年度秋季大会）は金沢大学（大会実行委員長は新田哲夫氏）で開催予定であることが報告された。
- (3) 大会運営委員長の交代について
2007年4月1日付で大会運営委員長が樋口康一氏より井上優氏に交代した。
- (4) 『言語研究』第130号彙報における[別表1]「2005年度日本語学会決算」の誤記について
『言語研究』第130号197、198、199ページの「基金内訳」の「計」が10,150,048とあるが、正しくは10,150,456であることが報告され、会長よりお詫びがあった。また、この間違いが生じた経緯の説明、及び『言語研究』第132号（本号）に訂正記事を掲載する旨の報告があった。
- (5) 2007年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）について
2007年6月15日付で平成19年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付決定通知（210万円）があった。
- (6) 常任委員会および各種委員会の活動報告

- ・常任委員会
「日本言語学会著作物取り扱い規程」が発効されたこと、および、『言語研究』表紙検討ワーキンググループの活動が報告された。新デザインが選ばれた過程が説明された後、新デザインの見本を回覧した。
- ・編集委員会
2006年度の『言語研究』の審査状況、および、『言語研究』第131号が2007年3月に発行されたことが報告された。また、2007年4月15日(日)に編集委員会が開かれ、「日本言語学会著作物取り扱い規程」の制定に伴う投稿規程の改訂、『言語研究』第134号と第136号の特集、『言語研究』の体裁変更に伴う論文印刷面の新デザインの3点についてそれぞれ検討したことが報告された。なお4月15日の編集委員会では、新しい表紙デザインを選ぶ投票も行なわれた。
- ・大会運営委員会
2007年4月8日(日)に第134回大会の発表要旨審査が行なわれた。口頭発表は91件中59件が、ポスター発表は6件中5件が、ワークショップは1件中1件が採択された。その他、第135回以降の大会の準備状況について、大会プログラム・ポスターのデザインや掲載する情報の見直しを行なったことについて報告があった。また、大会運営委員会の体制の変更について報告された。内容は次の通り：2007年4月1日付で委員長が樋口康一氏より井上優氏に交代したこと、および、2007年7月1日付けで服部匡氏、益岡隆志氏、町田健氏、三藤博氏が委員を退き、小野尚之氏、加藤重広氏、小林正人氏、西村義樹氏、星泉氏が新委員として加わる予定であること。
- ・広報委員会
「日本言語学会著作物取り扱い規程」に対する異議を2007年2月末日まで受けつけたが、異議は寄せられなかった。また、『言語研究』アーカイブ化に関して、第1段階として、本学会より雑誌を提供

して作業を進めてもらう(返却を求めない)最近の号に関する覚書を科学技術振興機構と締結し、アーカイブ化の作業が始まった。さらに、過去の様々な情報(大会プログラム、最近の『言語研究』の論文要旨、歴代の役員氏名等)をホームページに掲載する作業を行なっていることが報告された。

- ・「危機言語」小委員会
昨年度の活動実績と今年度の活動予定が報告された。今後の活動として、これまで同様、第134回大会でのワークショップを通じた一般言語学への貢献をはじめ、若手研究者を中心とする大会特別展示参加、一般向けのシンポジウムの企画(来年度)などを計画していることが報告された。さらに、危機言語に関するホームページの内容の充実、『言語研究』特集号への取り組み、日本語で読める危機言語に関する情報提供も行なう予定である。
- ・夏期講座小委員会
2007年6月15日(金)に麗澤大学で夏期講座小委員会が開かれた。次回夏期講座は2008年8月19日から8月24日にかけて京都で開催される予定である。なお、会場はキャンパスプラザ京都で行なえるよう調整中である。

(7) その他

2007年9月末日で任期が切れる井上優大会運営委員長、郡司隆男広報委員長に10月1日よりさらに1年半委員長をお願いすることが報告された。

[審議事項]

- (1) 2006年度決算および中間監査
 - ・2006年度決算報告があり承認された。これは2007年4月27日に佐藤昭裕、吉田和彦会計監査委員によって適正と認められたものである。[別表1]参照。
 - ・2006年12月21日に会計監査委員による中間監査が行なわれた。その結果、出入金が適正に管理されていることが確認された。また、より適正な会計処理のた

めの提案が会計監査委員により示された。[別記1] 参照。

- (2) 2007年度予算について
2007年度予算案を審議し，原案に従って承認した。[別表2] 参照。
- (3) 大会発表に関する諸規定の改訂
大会運営委員長から「口頭発表に関する規定」「ポスター発表に関する規定」「ワークショップに関する規定」の改訂案が提出され，原案通り承認された。改訂内容は，大会発表申し込み締め切り日を10日繰り上げ，8月20日及び3月20日としたことである。[別記2] 参照。
- (4) 投稿規程の改訂
「日本語学会著作物取り扱い規程」制

定に伴ない，編集委員長から投稿規程改訂案が提出され，原案通り承認された。改訂内容は次の通りである：「投稿者は，原稿が採用された時点で「日本語学会著作物取り扱い規程」を承諾したものとす。」という条文を第7項として加えた。[別記3] 参照。

- (5) その他
吉田和彦会計監査委員から領収書について各種委員会に依頼があった。領収書の但し書きが「旅費」「謝金」等だけでは，いつ・何のために使われたのかが分かりにくいため，日付および使用目的を明記してほしい旨が伝えられた。

【別記 1】 日本言語学会 2006 年度中間監査について

2006 年 12 月 21 日に日本言語学会の会計状況について中間監査を行いました。その結果について以下の通り報告し、また提案いたします。

現時点で把握できる範囲の出入金については適切に管理されており、早急の改善を必要とする問題は発見されなかった。以下は、より適正な会計処理のための提案である。

1) 科研費補助金の入金用通帳の管理について

a. 昨年度（2005 年度）の科研費補助金通帳の管理について

- ・ 学術振興会によって示された規定通り、会長名義の口座が作成されていた。
- ・ 『言語研究』の年度第 1 号の支払いについては、この会長名義の口座から中西印刷の当座預金口座へ振り込まれていた。ただし、2つの口座が同一銀行の同一支店にあったため、通帳には振込先の名称が記入されていなかった。しかし請求書ならびに領収書が保管されていたので、確認は可能であった。
- ・ 『言語研究』年度第 2 号の支払いについては、2006 年 3 月 9 日に現金で引き出され、そのまま現金で保持した後、5 月 29 日の請求により、7 月 21 日に支払われた。

b. 今後の改善点・確認点

- ・ 同一銀行内の当座預金への振込のため通帳には振込先が記入されないため、請求書、領収書をきちんと作成する。すなわち、他の品目（例えば各種封筒等の印刷代）と合わせて 1 枚の請求書で請求させるようなことは避け、『言語研究』第〇〇号印刷費のみで単独の請求書を出して貰う。
- ・ 年度第 2 号の支払い時期については、遅くとも、学術振興会の規定により定められた「実績報告書」および「刊行物一式」の提出期限以前に、請求・支払いが終わっている必要があると考える。

2) 科研費以外の預金通帳の調査

各種積立金を積み立ててある定期預金通帳と印鑑の管理状況（預金通帳の名義、残高、印鑑の管理方法）について調査した。

- ・ みずほ銀行定期預金は、適切に管理されていた。
- ・ 京都銀行定期預金（380 万円）はいまだ庄垣内前会長の名義であった。速やかに上野会長名への書き換えが必要である。残高については問題なかった。

3) 積立金について

- ・ 積立金の取り崩し、積み立ては予算で決められた通りを行う。2006 年度夏期講座の予算が、積立金を繰り入れることなく、当該年度の経常予算から支払われているが、積立金を古い方から（2003 年度積立金が一番古い）順次繰り入れ、最終的に経常の収支が黒字になれば、改めて（あるいは予算に従って）当該年度で積み立てる、という方式が望ましい。

以上です。

会計監査委員 佐藤昭裕
 会計監査委員 吉田和彦

**【別記2】口頭発表に関する規定、ポスター発表に関する規定、
ワークショップに関する規定の改訂**

(旧)

口頭発表に関する規定

4 口頭発表希望者は、発表申込書と発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締切は、春季大会は3月31日、秋季大会は8月31日（いずれも必着）とする。

ポスター発表に関する規定

4 ポスター発表希望者は、発表申込書と発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締切は、春季大会は3月31日、秋季大会は8月31日（いずれも必着）とする。

ワークショップに関する規定

4 ワorkshop企画希望者は、企画申込書と企画全体の要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締切は、春季大会は3月31日、秋季大会は8月31日（いずれも必着）とする。

(新)

4 口頭発表希望者は、発表申込書と発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締切は、春季大会は3月20日、秋季大会は8月20日（いずれも必着）とする。

4 ポスター発表希望者は、発表申込書と発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締切は、春季大会は3月20日、秋季大会は8月20日（いずれも必着）とする。

4 ワorkshop企画希望者は、企画申込書と企画全体の要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締切は、春季大会は3月20日、秋季大会は8月20日（いずれも必着）とする。

【別記3】投稿規程の改訂

(旧)

- 6 原稿の採否は編集委員会が決定する。
- 7 印刷上の体裁については編集委員会が決定する。

(新)

- 6 原稿の採否は編集委員会が決定する。
- 7 投稿者は、原稿が採用された時点で「日本語学会著作物取り扱い規程」を承諾したものとする。[本項の追加に伴い、旧投稿規程第7項以降の番号が一つずつ繰り下がった。]
- 8 印刷上の体裁については編集委員会が決定する。

【別表 1】2006 年度日本語学会決算

自 2006 年 4 月 至 2007 年 3 月 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,342,500	刊 行 費	4,716,490
雑 誌 売 上	868,850	発 送 費	393,335
科学研究費補助金	2,300,000	事 務 委 託 費	4,284,000
預 金 金 利	5,016	大 会 関 係 費	3,434,624
大会関係収入	2,043,500	委 員 会 費	209,930
雑 収 入	21,745	編 集 委 員 会 費	405,437
基金からの繰入	1,100,000	大会運営委員会費	435,360
雑 益	12,875	広 報 委 員 会 費	210,590
広 告 料	80,000	常 任 委 員 会 費	577,400
夏期講座会計より	2,087,427	「危機言語」小委員会費	195,233
		夏期講座小委員会費	73,585
		夏 期 講 座 経 費	1,200,000
		事 務 局 費	934,853
		危機言語シンポジウム費	274,891
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	746,467
		消 耗 品 費	382,756
		雑 費	26,410
		(基金への繰入)	
		名簿作成積立金	700,000
		選挙関係積立金	300,000
収 入 合 計	21,861,913	支 出 合 計	19,611,361
前 期 繰 越 金	1,078,732	次 期 繰 越 金	3,329,284
計	22,940,645	計	22,940,645

〈特別会計〉※詳細は別紙（2006 年度夏期講座決算）参照

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
言語学会事務局から入金	1,200,000	夏 期 講 座 支 出	4,268,346
夏 期 講 座 収 入	5,155,773	日 本 言 語 学 会 事 務 局 へ 送 金	2,087,427
収 入 合 計	6,355,773	支 出 合 計	6,355,773

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内個人会員	11,221,000
国内維持会員	170,000
国内学生会員	969,000
国内団体会員	745,500
在外個人会員	209,500
在外学生会員	27,500
合 計	13,342,500

雑誌売上

三省堂書店	75,600
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	499,400
丸善	233,100
その他書店	31,500
事務局販売	29,250
合 計	868,850

科学研究費補助金

2,300,000

預金金利

5,016

大会関係収入

132 回大会出店料（10 社）	120,000
132 回大会出店料（1 社）一日のみ	5,000
133 回大会出店料（3 社）	60,000
132 回大会予稿集	1,332,000
133 回大会予稿集	488,500
111 ～ 131 回大会予稿集	38,000
合 計	2,043,500

雑収入

予稿集コピーサービス等	450
130 号別刷り代	21,295
合 計	21,745

基金からの繰入

1998 年度危機言語積立金	500,000
2003 年度夏期講座積立金	600,000
合 計	1,100,000

雑益

前年度未払処理時の差益	12,450
クレジットカード引落し時差益	425
合 計	12,875

広告（名簿広告掲載料） 80,000

夏期講座会計より ※夏期講座会計より事務局へ
別紙資料参照 2,087,427

◇支出内訳（単位：円）

刊行費	印刷部数 各号共に 2,400 部		
	130 号 (234 ページ)	131 号 (216 ページ)	計 (450 ページ)
印刷費	2,432,430	2,203,740	4,636,170
抜刷代	40,320	40,000	80,320
計	2,472,750	2,243,740	4,716,490

※割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』 発送料	130 号	218,010
(追加発送料は含まない)	131 号	175,325
合 計		393,335

事務委託費 4,284,000

2006 年 4 月分～ 2007 年 3 月分
日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた
事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

大会関係費

内 訳	第 132 回	第 133 回	計
プログラム印刷費	139,650	92,400	232,050
ポスター印刷費	73,500	73,500	147,000
出欠葉書印刷費	23,625	24,150	47,775
プログラム発送費	296,540	264,940	561,480
大会費	552,622	390,005	942,627
予稿集印刷費	702,622 (700 部)	612,150 (450 部)	1,314,772
資料複写費	0	6,240	6,240
講師謝金	63,000	119,680	182,680
合 計	1,851,559	1,583,065	3,434,624

委員会費

通信費	29,310
会議費	180,620

合 計	209,930
-----	---------

編集委員会費

通信費	85,878
会議費	35,679
旅費	250,880
アルバイト費	33,000

合 計	405,437
-----	---------

大会運営委員会費

旅費	435,360
----	---------

合 計	435,360
-----	---------

広報委員会費

通信費	2,310
謝金	208,280

合 計	210,590
-----	---------

常任委員会費

通信費	300
会議費	10,000
旅費	447,100
謝金	20,000
デザイン料	100,000

合 計	577,400
-----	---------

「危機言語」小委員会費

通信費	3,350
会議費	63,328
旅費	100,000
文具・ソフト代	28,555

合 計	195,233
-----	---------

夏期講座小委員会費

通信費	105
旅費	53,480
会議費	20,000

合 計	73,585
-----	--------

夏期講座会計へ支出 1,200,000
 ※事務局より夏期講座会計へ支出（別紙資料参照）

事務局費

通信費	1,000
旅費	218,596
会議費（役員引継会）	60,432
事務局長費（含む事務局長補佐経費）	480,000
著作権ちらし+学会活動案内印刷費	174,825
合 計	934,853

「危機言語」シンポジウム費

会議費	3,284
旅費	239,280
謝金	20,000
コピー代	12,327
合 計	274,891

CIPL 負担金

CIPL2006 年度負担金	100,500
送金手数料	9,500
合 計	110,000

通信費

切手購入	129,700
銀行送金通知手数料	40,320
会費請求・督促状送料	64,530
カード手数料・送金手数料	89,062
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	21,175
発表採否通知・司会者依頼状等大会関係送料	141,710
その他（文科省提出書類発送等）送料	9,650
その他（著作権規程+学会活動案内）	250,320
合 計	746,467

消耗品費

文房具（領収証等）購入費	7,906
振替用紙・会費納入願い等印刷費	75,600
封筒印刷費	299,250
合 計	382,756

雑費

未払い金支払い時の追加分	4,410
SMBC ファイナンス引落し依頼書購入	22,000
合 計	26,410

(基金へ繰入)

名簿作成積立金	700,000
選挙関係積立金	300,000
合 計	1,000,000

◇2006年度日本言語学会夏期講座決算

自 2006年4月 至 2007年3月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
受講料	5,090,000	ポスター	
懇親会会費	64,000	印刷費	42,000
予稿集1冊	1,500	郵送費	36,820
銀行口座利息	273	予稿集	
日本語学会より	1,200,000	印刷費	330,398
		郵送費	77,440
		謝礼	
		講師	1,587,683
		講師以外	267,242
		会場費	331,200
		パーティー代	
		ウェルカムパーティー	280,000
		懇親会	272,500
		アルバイト代	939,300
		消耗品費	85,553
		雑費	18,210
		日本語学会へ送金	2,087,427
収入合計	6,355,773	支出合計	6,355,773

◇ 2006 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会 費	14,250,000	13,342,500	△ 907,500
雑誌売上	1,400,000	868,850	△ 531,150
科学研究費補助金	2,300,000	2,300,000	0
預金金利	1,000	5,016	4,016
大会関係収入	1,600,000	2,043,500	443,500
雑収入	50,000	21,745	△ 28,255
基金からの繰入	2,150,000	1,100,000	△ 1,050,000
雑益	0	12,875	12,875
広告料	0	80,000	80,000
夏期講座会計より	0	2,087,427	2,087,427
収入合計	21,751,000	21,861,913	110,913
前期繰越金	1,078,732	1,078,732	0
合計	22,829,732	22,940,645	110,913

支出

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	7,000,000	4,716,490	2,283,510
発送費	500,000	393,335	106,665
事務委託費	4,284,000	4,284,000	0
大会関係費	3,550,000	3,434,624	115,376
委員会費	250,000	209,930	40,070
編集委員会費	500,000	405,437	94,563
大会運営委員会費	850,000	435,360	414,640
広報委員会費	500,000	210,590	289,410
常任委員会費	500,000	577,400	△ 77,400
「危機言語」小委員会費	200,000	195,233	4,767
夏期講座小委員会費	100,000	73,585	26,415
夏期講座費	1,200,000	1,200,000	0
事務局費	700,000	934,853	△ 234,853
危機言語シンポジウム費	700,000	274,891	425,109
C I P L 負担金	110,000	110,000	0
東洋学 (アジア研究)	10,000	0	10,000
連絡協議会運営分担金	10,000	0	10,000
通信費	500,000	746,467	△ 246,467
消耗品費	250,000	382,756	△ 132,756
雑費	25,732	26,410	△ 678
予備費	100,000	0	100,000
(基金への繰入)			
名簿作成積立費	700,000	700,000	0
選挙関係積立費	300,000	300,000	0
支出合計	22,829,732	19,611,361	3,218,371
次期繰越金	0	3,329,284	△ 3,329,284
合計	22,829,732	22,940,645	△ 110,913

◇資産勘定

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
本部事務局		前受会費	
現金	495,841	国内個人	70,000
みずほ銀行口座	1,625,362	国内学生	107,000
郵便振替口座	958,400	国内団体	0
カード	36,500	国内維持	10,000
事務局		在外個人	51,000
事務局口座	0	在外維持	16,500
常任委員会口座	53,730	未払金	215,325
「危機言語」小委員会口座	4,767		
危機言語シンポジウム口座	125,109		
未収金	499,400	次期繰越	3,329,284
計	3,799,109	計	3,799,109

※未収金は当該年度内収入の受取が間に合わなかった場合の科目。2006年度決算の未収金の内訳は以下の通り

内 訳	金 額
『言語研究』売上げ（松香堂取次分）	499,400
合 計	499,400

※未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目。2006年度決算の未払金の内訳は下記の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』第131号発送費	175,325
『言語研究』第131号別刷り印刷費	40,000
合 計	215,325

基金 決算

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	10,150,456	一般会計へ支出	1,100,000
一般会計より繰入	1,000,000		
預金金利	2,579		
収入合計	11,153,035	支出合計	1,100,000
		次期繰越金	10,053,035
計	11,153,035	計	11,153,035

基金 資産勘定

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	6,250,000	積立金	10,053,035
京都銀行定期預金口座	3,803,035		
計	10,053,035	計	10,053,035

○基金内訳（銀行別）

(単位：円)

銀行名	預かり番号	名目	金額
みずほ銀行	041	2006 年度選挙作成積立金	300,000
みずほ銀行	040	2006 年度名簿作成積立金	700,000
みずほ銀行	039	2005 年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004 年度記念大会積立金	1,000,000
みずほ銀行	035	2004 年度夏期講座積立金	600,000
京都銀行	002	2004 年度夏期講座積立金	1,400,000
京都銀行	001	2004 年度危機言語プロジェクト積立金	400,325
京都銀行	002	2004 年度 e- ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	038	2003 年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003 年度 e- ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002 年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001 年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000 年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	019	2000 年度危機言語プロジェクト積立金	200,000
みずほ銀行	014	1999 年度記念大会積立金	500,000
みずほ銀行	007	1998 年度記念大会積立金	250,000
京都銀行	(002)	預金利子積立分*	2,710
		計	10,053,035

* 京都銀行定期（預金番号 002）に一括積立の 2004 年度の 3 種の積立金の利息

【別表 2】2007 年度日本言語学会予算

自 2007 年 4 月 至 2008 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	5,466,429
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	500,000
科学研究費補助金	2,100,000	事 務 委 託 費	4,284,000
預 金 金 利	1,000	大 会 関 係 費	3,600,000
大会関係収入	1,600,000	委 員 会 費	250,000
雑 収 入	10,000	編 集 委 員 会 費	600,000
		大会運営委員会費	900,000
		広 報 委 員 会 費	500,000
		常 任 委 員 会 費	600,000
		「危機言語」小委員会費	300,000
		夏期講座小委員会費	200,000
		事 務 局 費	800,000
		C I P L 負 担 金	110,000
		東洋学（アジア研究）	10,000
		連絡協議会運営分担金	
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	300,000
		雑 費	19,855
		予 備 費	400,000
		(基金への繰入)	
		名簿作成積立費	700,000
		選挙関係積立費	300,000
収 入 合 計	17,211,000	支 出 合 計	20,540,284
前 期 繰 越 金	3,329,284	次 期 繰 越 金	0
合 計	20,540,284	合 計	20,540,284

2007 年度第 1 回「危機言語」小委員会

日 時：2007 年 6 月 16 日（土）13:15～15:00
 場 所：麗澤大学校舎 1 号棟 2 階大会議室
 出席者：遠藤 史，金子 亨，呉人 恵，坂本比奈子，佐々木冠，笹間史子，白井聡子，白石英才，田村すゝ子，千葉庄寿，角田太作，中山俊秀，渡辺 己（計 13 名）

[議事と報告]

- (1) 2007 年度予算について
 委員長から報告がなされるとともに、予算執行に透明性を期するために、領収書の作成等についての十分な留意が促された。
- (2) 秋季大会特別展示の準備について
 2007 年 11 月に開催される秋季大会における「危機言語」小委員会主催の特別展示について、準備状況が担当の遠藤史氏から報告された。
- (3) 『言語研究』の危機言語特集への寄稿と人選について
 編集委員会委員である角田太作氏より、『言語研究』134 号（2008 年 9 月予定）「危機言語」特集への寄稿要領、投稿者の人選などについての編集委員会の基本的な意向が報告され、これにもとづき、6 月末をめどに早急に入選を進めることで同意された。
- (4) 「危機言語」に関する書籍の出版進行状況
 千葉庄寿氏から、7 月末までに原案を詰め、出版社との話し合いに入ることが報告がなされた。

2007 年度第 1 回夏期講座小委員会

日 時：2007 年 6 月 15 日（金）16:00～20:00
 場 所：麗澤大学校舎 1 号棟 2 階会議室
 出席者：三原健一，風間伸次郎，坂原 茂，西光義弘，橋本喜代太

[議題]

- (1) 夏期講座 2008 について
 2008 年 8 月 19 日～8 月 24 日に夏期講座 2008 をキャンパスプラザ京都で開催

する予定であることを確認した。また、開講科目・講師、及び実行委員についてはほぼ確定したが、再度調整し、秋の日本語学会委員会において報告することとした。

キャンパスプラザ京都は、正式には半年前からしか予約を受け付けず、1 年前からの仮押さえはしてくれるが、コンソーシアム京都加盟大学の申し込みがあれば、それが優先されるため、この他の 3 会場も予定に入れておくこととした。

受講生から、授業のレベルを明確にして欲しいという要望がかなりあるので、夏期講座 HP に掲載するシラバスと『夏期講座 Handbook』に授業レベルを明記することとし、各講師にシラバスの提示を求める際に授業レベルを再度確認することとした。

- (2) 今後の夏期講座について
 夏期講座 2008 以降は 3 科目程度の入門講座を開講することを確認した。学生受講者に対して修了証書、あるいは単位が出せないか引き続き検討することとした。
 関東と関西の隔年開催を原則とするが、数回に 1 回は、合宿形式で他地域での開催も考慮することを再度確認した。

第 134 回大会

期 日 2007 年 6 月 16 日 (土)・6 月 17 日 (日)

会 場 麗澤大学

公開講演 6 月 17 日

〈言語的主観性〉の統一理論に向けて:

中右 実

モダリティ・発話行為・敬語からの展望

公開シンポジウム 6 月 17 日

大規模コーパス研究の方法:

言語研究の新しいスタンダードの構築に向けて

司会 千葉 庄寿

コメンテーター 松村 一登, 定延 利之

概要と問題提起

コーパスを用いた英語研究の方法

千葉 庄寿

大規模均衡コーパスが開く可能性

滝沢 直宏

前川喜久雄

口頭発表 6 月 16 日

。A 会場

(A 1) 13:15 ~ オリヤ語の、被使役者の格の相違で区別される 2 つの使役構文

山部 順治

(A 2) 13:50 ~ バントゥ諸語分岐の歴史:一つの仮説

湯川 恭敏

(A 3) 14:25 ~ 最適性理論による日本語の使役文における格標示と解釈の説明

佐野真一郎

(A 4) 15:00 ~ 最適性理論と古英語から現代英語における話題化

深谷 修代

(A 5) 15:45 ~ 日韓語の複合動詞形成システムの対照研究:「手段」の複合動詞を中心に

李 忠奎

加藤 重広

(A 6) 16:20 ~ 日本語の「のだ」の証拠性とポライトネス標示機能:韓国語の「kes-ita」との対比を通じて

金 廷珉

堀江 薫

(A 7) 16:55 ~ 漢語平江方言の 3 人称

張 盛開

(A 8) 17:30 ~ チン語支テディム方言における相互・受動文の接頭辞 KI-

大塚 行誠

。B 会場

(B 1) 13:15 ~ シベ語の「副動詞 + bi-」構文の機能と証拠性

児倉 徳和

(B 2) 13:50 ~ 現代モンゴル語のパーフェクト

松岡 雄太

(B 3) 14:25 ~ モンゴル語の終助詞 mön の機能

ジンガン

(B 4) 15:00 ~ 満洲語文語, モンゴル語及び日本語の限定表現

山崎 雅人

(B 5) 15:45 ~ 英語結果構文に対応するタイ語構文:タイ語結果構文の統語と意味の関係

松井夏津紀

(B 6) 16:20 ~ タイ語の非現実性マーカーが生起する意味文脈の歴史的变化

高橋 清子

(B 7) 16:55 ~ トルコ語における介在性の表現がもつ隠喩的な用法について

Aydın ÖZBEK

(B 8) 17:30 ~ トルコ語の属格名詞の独立性と疑問接語の生起位置

吉村 大樹

。C 会場

(C 1) 13:15 ~ クルフ語・マルト語の動詞活用の史的再建

小林 正人

(C 2) 13:50 ~ Temporal interpretation in Iquito

I-wen LAI

- (C 3) 14:25 ~ Aspectual properties of unaccusatives and two kinds of transitives in Straits Salish KIYOTA Masaru
- (C 4) 15:00 ~ 受身と「動作主背景化」: アラビア語エジプト方言との関連で ハッサン エバ
- (C 5) 15:45 ~ ヒンディー語の〈V-ne-vālā honā〉の三用法 今村 泰也
- (C 6) 16:20 ~ サンスクリットの異語幹名詞 akṣi- について 高橋 淳一
- (C 7) 16:55 ~ 接続法第Ⅲ類に関わるトカラ語の動詞形成 安永 昌史
- (C 8) 17:30 ~ 上ソルブ語の再帰代名詞対格長形 sebje 笹原 健
- D 会場
- (D 1) 13:15 ~ Control Cycle と文照応形 so, it の分布について 森 貞
- (D 2) 13:50 ~ 英語状況副詞句の配列条件と句構造 鈴木 博雄
- (D 3) 14:25 ~ 関係節構文に通言語的に見られる随伴現象に関する制約 稲田俊一郎
- (D 4) 15:00 ~ *Cén fáth* “why” in modern Irish Hideki MAKI
Dónall P. Ó BAOILL
- (D 5) 15:45 ~ フランス語における他動詞型身体属性文の統語分析 小澤 卓哉
- (D 6) 16:20 ~ イタリア語における再帰非人称構文の統語構造 藤田 健
- (D 7) 16:55 ~ Phrasal movement vs. head movement: On licensing conditions on NPIs Chizuru NAKAO
Miki OBATA
- (D 8) 17:30 ~ 日本語の「対格・属格交替」と Agree/Phase 理論による *Wh* 一致分析 浦 啓之
浅野 真也
- E 会場
- (E 1) 13:15 ~ 韓国慶尚道方言の外来語のアクセント 孫 在賢
- (E 2) 13:50 ~ 中国で話されている朝鮮語における 1 音節動詞のアクセント: 語幹が /l/ で終わるものを中心に 河須崎英之
- (E 3) 14:25 ~ 日本歌謡におけるアクセントの実現 小平百々子
- (E 4) 15:00 ~ 長崎方言における二字漢語のアクセント型について 松浦 年男
- (E 5) 15:45 ~ Place and manner asymmetries in perception of epenthetic stops Takahito SHINYA
- (E 6) 16:20 ~ イタリア語の重子音と促音形成: 種類と生起位置に着目して 田中 真一
- (E 7) 16:55 ~ 音節末における側面音のソノリティーおよび音節構造との関わりについて: フランス語からの形態音韻論的考察 桑本 裕二
- (E 8) 17:30 ~ リトアニア語における Saussure effect 山崎 瑤子
- F 会場
- (F 1) 13:15 ~ 知覚表現への視覚と聴覚の身体的制約: 認知言語学的一考察 高嶋由布子
- (F 2) 13:50 ~ 日本語における象徴語を含む述語の事象タイプ決定 秋田 喜美
- (F 3) 14:25 ~ 状態変化動詞の下位クラスと被作用性の制約: 中間構文形成の観点から 関 敬一郎
- (F 4) 15:00 ~ 比較及び類似構文における比較基準マーカに関する言語類型論的研究 野瀬 昌彦
- (F 5) 15:45 ~ 日本語場所格交替における意味的制約の階層性 大崎 梓

- | | | | |
|-------|---------|---|---------------|
| (F 6) | 16:20 ~ | 修飾語としての「も」句 | 小淵 -Philip 麻菜 |
| (F 7) | 16:55 ~ | 南の従属節分類再考 | 戸次 大介 |
| (F 8) | 17:30 ~ | 数詞 [1] を含む日本語の数量詞の用法について：否定極性項目としての用法を中心に | 坂本 智香 |

◦ G 会場

- | | | | |
|-------|---------|---|--|
| (G 1) | 13:15 ~ | 関係節の処理における顕在的韻律情報の役割 | 村岡 論
松浦 年男
坂本 勉 |
| (G 2) | 13:50 ~ | 数量詞と名詞句との依存関係の統語処理過程について | 安永 大地
坂本 勉 |
| (G 3) | 14:25 ~ | 日本語非対格文における名詞句移動：文解析研究からの証拠 | 桃生 朋子
小町 将之
瀬楽 亨
大津由紀雄 |
| (G 4) | 15:00 ~ | 日本語かき混ぜ文の処理と節境界の挿入 | 小野 創
田中 潤一
酒井 弘 |
| (G 5) | 15:45 ~ | 日本人幼児の二重目的語構文産出における「に」句と「を」句の語順選好 | 田村 真一
小泉 政利
郷路 拓也
桂 奈津子
金子 義明
遊佐 典昭
行場 次朗
萩原 裕子
遠藤 直美
高祖 歩美
萩原 裕子
尾島 司郎 |
| (G 6) | 16:20 ~ | 日本語における <i>wh</i> 島の効果について | |
| (G 7) | 16:55 ~ | 音韻、語彙、統語処理に関する聴覚文理解の事象関連電位研究：脳内指標と時系列を中心として | |

◦ H 会場

- | | | | |
|-------|---------|---|-------|
| (H 1) | 13:15 ~ | 日本語の準体法消失に見る形式的な区別の消失に対する補償 | 杉浦 滋子 |
| (H 2) | 13:50 ~ | 近世における「テシマウ」の使用 | 花井 善朗 |
| (H 3) | 14:25 ~ | 日本語の動詞はなぜ後置詞化するのか：再分析が起こる文脈の意味的・構造的特徴から | 陳 君慧 |
| (H 4) | 15:00 ~ | 複合動詞の生産性といわゆる「統語的／語彙的」の区別：コーパスにもとづく考察 | 松村 一登 |

ワークショップ 6月16日

◦ H 会場

活格性とはなにか？：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 2

司会 呉人 恵
コメンテーター 佐々木 冠

イントロダクション

ハイダ語（北米先住民諸語）と活格類型論

グルジア語（南コーカサス語族）における活格性

琉球方言の主体—客体表現から

ニヴフ語の条件的有生性標識について

角田 太作

堀 博文

児島 康宏

まつもと ひろたけ

金子 亨

ポスター発表 6月17日

◦ I会場

世界の英語変種の最適性理論による分析：再考

複合語の生産性と文法的性質

コーパス分析に基づく連体表現の使用調査

西原 哲雄

浅尾 仁彦

李 在鎬

黒田 航

渋谷 良方

河原 大輔

井佐原 均

澤田 淳

日英語の他動詞構文の事象構造に関する対照言語学的

考察：「直接使役」(direct causation) か「間接使役」

(indirect causation) か

幼児の関係節理解からみた格助詞の理解と作動記憶容

量のかかわり

水本 豪

◇退 会

国内通常会員	43 名
海外通常会員	3 名
国内団体会員	1 件
国内学生会員	5 名